

日本の精神障害者は、戦後の民主主義憲法下においてもなお、
世界に類を見ない長期入院を強いられ、
差別の目にさらされてきた。

すっぽん会報 第1号

月刊 **ぜんがれ**
ひとり、ひとりがひとりじゃない

京都滋賀精神医療人権センター
活動報告

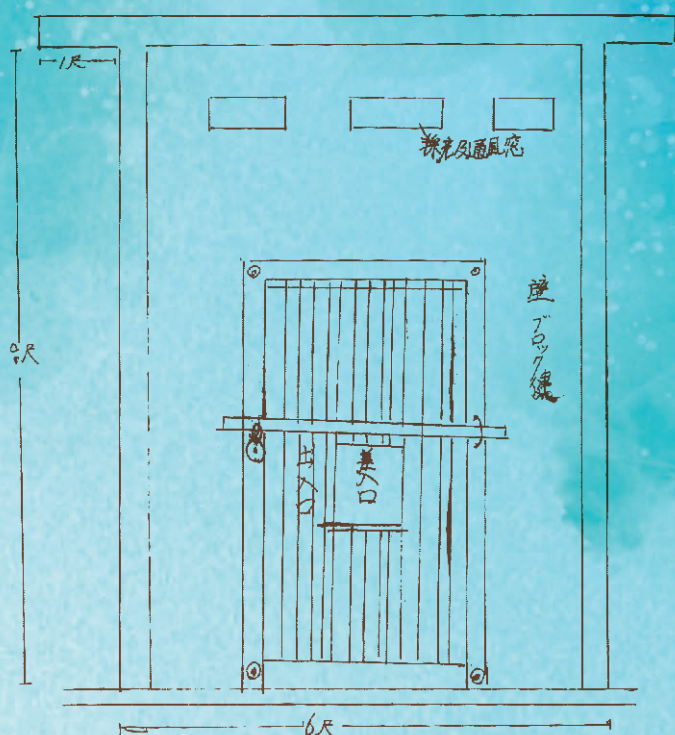
ネットワーク・ニュース NO.1

精神国賠通信

人権センターニュース

百人委員会ニュース

監置室正面図



六花出版

戦後編 第13巻〜第16巻 精神障害者問題資料集成

編 岡田靖雄

編集復刻版

既刊・全12巻をおぎない、今後につなげるものとして4巻を刊行！

精神衛生審議会の記録、家族会の動き、

当事者の各地での活動、保安処分・医療観察法との闘いをあつづけ、

沖縄での1950年代から60年代の精神病者監置の実態を示す資料を収録。

第13巻
精神衛生審議会記録／精神障害者家族会
のあとさき／精神障害者人権擁護の動き

■精神衛生審議会記録

在院精神障害者実態調査結果概要（報）一九六六・九
中央精神衛生審議会医療制度部会議事要旨
一九六六・二二
中央精神衛生審議会医療制度部会議事要旨
一九六六・二二
精神障害の治療について一九六七・一
「資料」医療法／疑義照会／国立療養所精神病床年次別
推移／精神病院入院患者数・利用率等現状
一九六七・一

精神衛生センター運営要綱（案）一九六七・一
小児精神病院について一九六七・二
中央精神衛生審議会医療部会一九六七・二
デイ・ケア・センター（昼間通所治療施設）について・村松委員
（国立精神衛生研究所）一九六七・二
精神衛生審議会における検討を希望する問題点（秘）
一九六七・三
昭和42年度予算内示額の概要・精神衛生課一九六七・三
中央精神衛生審議会医療制度部会議事要旨一九六七・三
治療処分の構想に関する諸案（秘）一九六七・三
改正刑法準備草案・抜すい一九六七・三
中央精神衛生審議会総会議事要旨一九六八・二
中央精神衛生審議会医療制度部会議事要旨一九六八・三
中央精神衛生審議会施設部会議事要旨一九六八・三
中央精神衛生審議会総会一九六八・四
精神医療体系の現状に対する意見一九六八・四
精神病院建築基準（案）一九六八・四
精神衛生審議会の麻薬専門部会の設置について・厚生省
薬務局麻薬第二課一九六八・五
開設者別精神病床年次別推移（各年6月末現在）精神衛生課
一九六八・五
諮問書 医療審議会 厚生省発医第14号・厚生大臣一九六八・五

■精神障害者家族会のあとさき

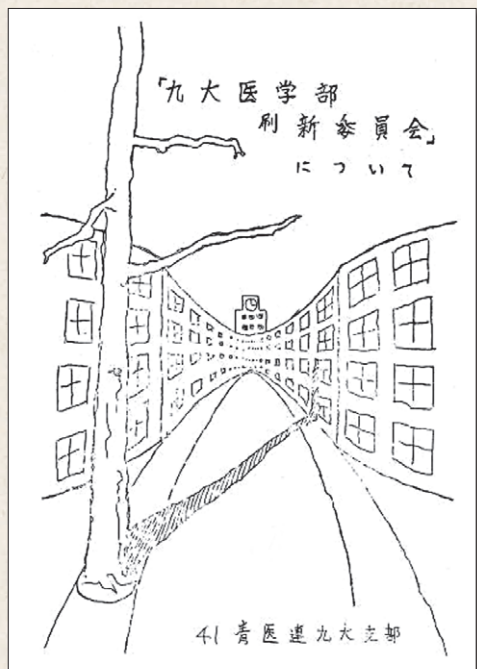
東京弁護士会人権賞受賞挨拶・大谷藤郎二〇〇七・一
月刊ぜんかれん 2007/1 全国精神障害者家族会連合会
二〇〇七・一
月刊ぜんかれん 2007/2 全国精神障害者家族会連合会
二〇〇七・二
月刊ぜんかれん 2007/3 全国精神障害者家族会連合会
二〇〇七・三

■精神障害者人権擁護の動き

大阪精神医療人権センター設立集会への参加をよびか
けます。精神病差別と闘う大阪府民の会ほか一九八五・一〇
結成趣意書・精神病差別と闘う大阪府民の会ほか一九八五・二
人権センターニュース4 大阪精神医療人権センター
一九八五・二
人権センターニュース6 大阪精神医療人権センター
一九八五・二
人権センターニュース7 大阪精神医療人権センター
一九八五・二
京都滋賀精神医療人権センター活動報告 1989.10.1-
1990.9.30「精神障害者」の人権と生活を考える10・28市民集会
一九九〇・一〇



内容
見本



一九六六年

一九八五年一〇月

百人委員会 ニュース No.1 49.8.15 ¥50

刑法改正、保安処分に反対する

東京都文京区本郷7の3の1

百人委員会

東大病院精神学科第1研究室気付

振替 東京 1755556

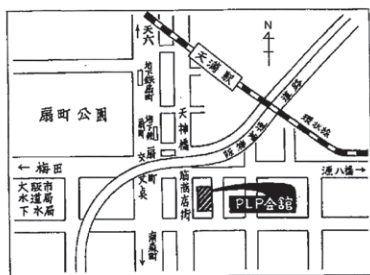
今回の「改正」刑法編が、著しい刑罰対象の拡大と刑罰網の強化を伴っていることは、立案者もよく認めている所である。国民生活のすみずみまで刑罰を拡大しなければや
つていけない、ということば、支配権力が自らの政治的破壊を告白することであり、よく
よくのことです。じつは、極端な高度成長のもとで、極限的な分業・労働収奪、極限的
な環境破壊・産業環境、極限的な社会緊張で、もう、日本の社会は、上から下まで、キ
ンキンに張りつめられている状態です。
国民生活のすみずみまでへの刑罰の拡大に対して、政治・労働・婦人・学生、そして医
学界、ジャーナリズム、地域住民など、芸術・表現の分野など、あらゆる領域から、反対
が表明されています。法曹界、教養・障害者関係はいうまでもありません。
このような状況は、まことに心強い限りですが、同時に、刑法改正阻止が、「改正派」
各派の撤回や修正の勢いで決まっています。かといって、先取りの既成事実との闘いで
あることを考えると、各派でそれぞれの最も適切な問題意識を持ち、互いに理解し合
うことが肝要ではないでしょうか。こうして、各派が、各自の最も適切な問題意識と
ともに、改悪全体の意味や本質を明確に理解し共有してゆくことができるでしょう。
もとより、百人委員会は、そのような目的で生まれました。当初は、保安処分に切実な
関心をもち精神医療、公衆衛生関係者、弁護士、教養運動者が集まりました。この問題で
始めて顔を合わせ、その討論の中で、問題意識を掘り深めることができたのです。私たち
は、保安処分が、たまたま、私たちの切実な関心を寄せる問題であるに留まらず、じつは、
今回の「改正」案の最も重要な本質であることを確認してきました。幸い、より広汎な領
域・労働戦線・運動・医学、法学の学生・団体、宗教者の方々の賛同をえ、正式に百
人委員会を結成することができた、という次第でした。
百人委員会の生命は、それを構成する諸個人が属している各派・各運動体の、それぞ
れの活動にあります。同時に、私たちは、各運動体が、百人委員会という共通の場か
ら、活動の源泉となる養分を汲み出してくださることを望んでいます。
また、刑法改正や保安処分について世間の関心がいまほど高くなかったときに芽生え
足した百人委員会ですが、現在の状況の中では、役割は、低くなつたことが、ますま
す重要になっていくと信じています。関心の共通の場としての百人委員会の役割をしま
かりと持続し、拡大してゆくために、ここに機関紙を発刊することにしました。会員や読者
の皆さまの、積極的な投稿をも含め、熱烈な御支援をお願いいたします。

- 1 -

大阪精神医療人権センター設立集会 への参加をよびかけます。

■大阪精神医療 人権センター設立集会

- 時 11月9日(土曜)
午後6時半より
- 所 PLP会館 6階



日本の精神医療の現状は依然として治安優先の隔離収容の思想でつま
まれている。精神病の治療についての悲観的な見方がなお治療者自身の
側に強く、じつは多くの隔離と差別の結果である事態についても、それが
患者と医師のせいであるかのようにみえ、悲観的な見方を一層
強化しています。社会の差別と偏見は、何か精神病者にまつわる不幸な「
事件」の発生たびに権力とマスコミが一体となって展開する執拗な野
放しキャンペーンによって常に煽動されています。そして閉鎖的な精神
病院の中では、殺人から小遣いのピンハネに至るあらゆる患者の人権侵害が
日常化しています。密閉化し治療法強化した精神病院で何が行われている
か外から知るのには容易なことではありません。昨年の栃木県宇都宮病院の
告発はリンチ殺人を含む凄まじいばかりの精神病院の荒廃ぶりを白日の
もとにさらけだしました。
残念ながら宇都宮問題は、氷山の一角といわざるをえません。三万床
の精神科病床の大部分が閉鎖病棟であり、通面会への自由を奪われた多く
の患者が日常的な人権侵害の中に放置されている実情です。
大阪においても、安田病院事件・看護の暴力による患者死亡事件、栗岡
病院事件・院長を先頭にしたりんちによる患者殺害事件、大和川病院事件
（看護の暴力による患者の死亡事件）、和泉正病院事件（さるぐつわによる
患者の窒息死事件）など、不祥事は絶えません。
一方、厚生省は、昨年六月いわゆる三局長通達を出して、患者の処遇
に対する指導方針をまとめたものの、その実効は期待できないといわざ
るをえません。宇都宮病院自体がなんと改善の気配がみえませんが、
指導もいかにせんのです。そして、司法が介入するのにも限界がありま
す。全くおさき真暗としかいようがありません。しかもまだ精神科病床は
増加しつつあります。一体どうやっていくのでしょうか。
問題を国際的な視野の中に持ち込むと、アメリカもイギリスもそれぞ
れ精神医療にかんする大きな問題を抱えていて、かならずしもその全体を模範
とするに足るような状態ではありませんが、まだ患者の人権に関する法的
な救済の保障や入院の基準においては学ぶべきことがあります。国連人権小
委員会、日本の精神医療の問題をとりあげて、これを厳しく批判してい
ます。
わたしたちは、このような中で、精神障害者、とくに入院治療を受ける
患者の人権を守るために、通面会への自由を保障し、患者の訴えをとりあ
げようという運動が必要であると考えます。このため「大阪精神医療人
権センター」を設立して、患者の訴えを聞き、人権侵害の事例を検討し、
その原因を追及し、大阪の精神医療を改革していく力になりたいと考える
ものです。多くの方々が、設立の趣旨に賛同され、運動に参加されますよ
うに呼びかけます。

一九八五年一〇月

●呼びかけ● 精神病差別と闘う大阪府民の会／新希望の会／医療と人権
を守る大阪PSW連絡委員会／大阪精神医療従事者連合／
精神医療と人権を考える弁護士の会・大阪支部

●連絡先● (0726)96-2883
刑法改「正」保安処分に
反対する高槻99人委員会

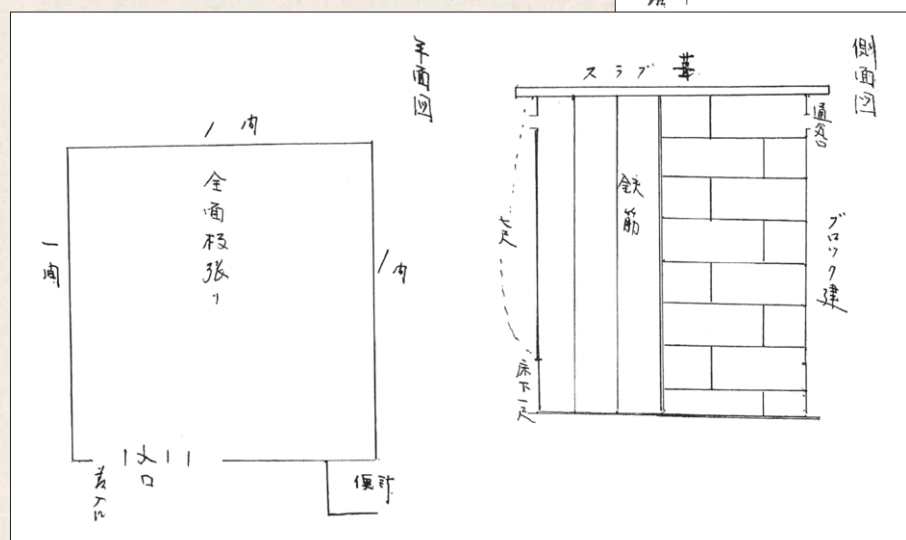
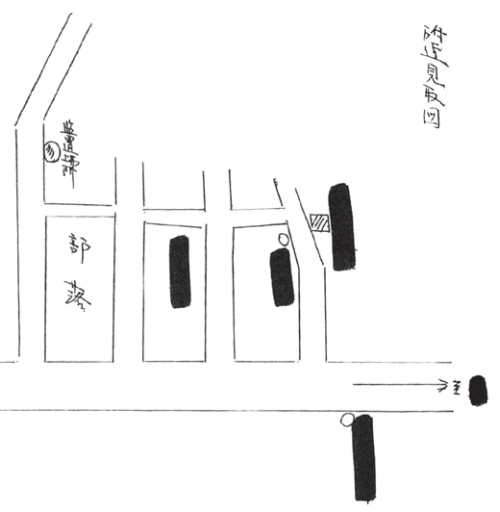
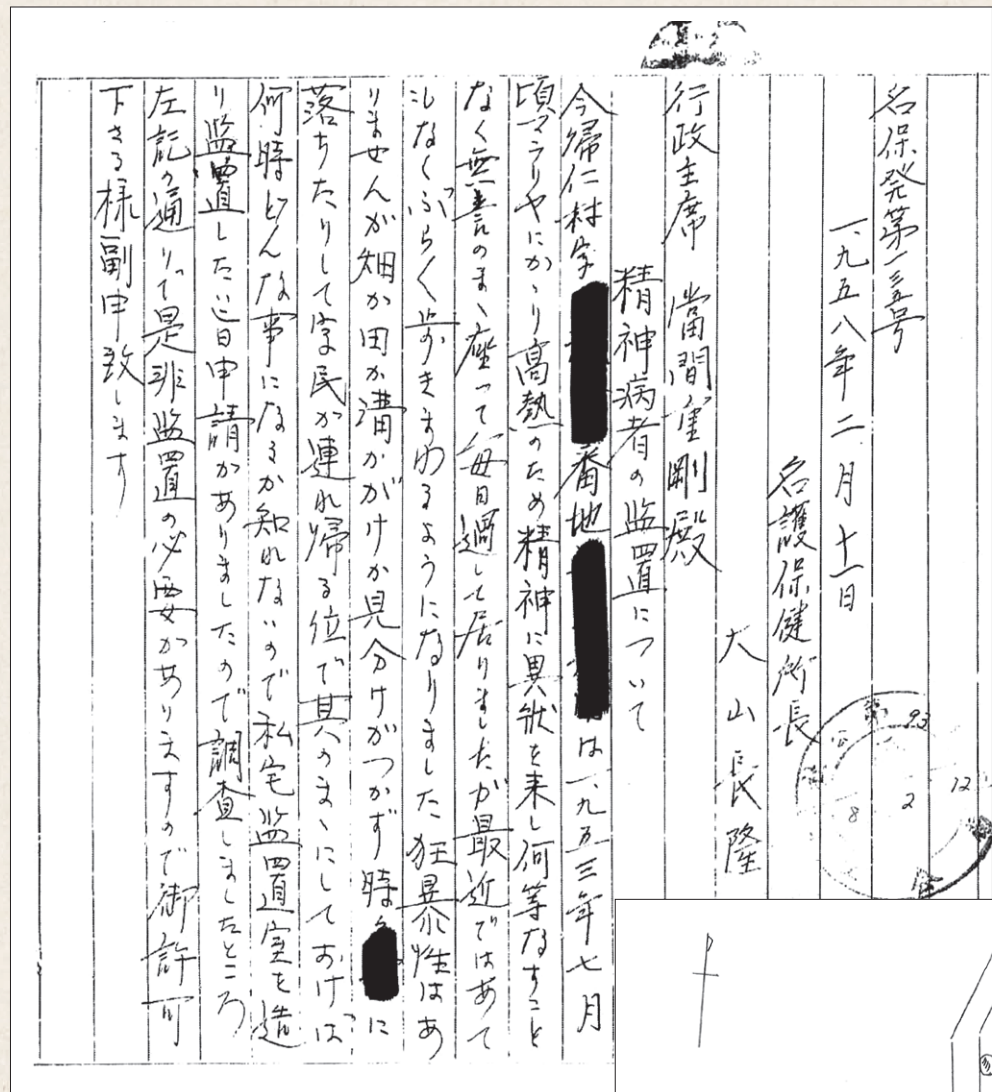
収録資料一覧

- 保安処分、医療観察法との闘い
- 「九大医学部刷新委員会」について ● 41 青医連九大支部 ● 一九六六・〇
- 保安処分粉砕／全国共闘会議結成大会 基調報告 ● 保安処分粉砕全国共闘（連）事務局 ● 一九七・二二
- 「刑法改正、保安処分に反対する百人委員会」趣意書 ● 一九七四・三
- 声明 ● 日本精神神経学会理事会／同保安処分に反対する委員会 ● 一九八〇・八
- 保安処分に関する貴会との懇談会について（申し入れ） ● 日本精神神経学会理事会 ● 一九八〇・八
- 抗議ならびに要望書 ● 日本精神神経学会理事会／同保安処分に反対する委員会 ● 一九八〇・八
- 声明 ● 刑法改正／保安処分に反対する百人委員会 ● 一九八〇・九
- 10・5 百人委員会第二回総会ならびにシンポジウムに結集を！ ● 一九八〇・二〇
- 「刑法改正 保安処分に反対する百人委員会」趣意書 ● 一九八一・七
- 11・18 全国集会への招請 ● 刑法改正・保安処分に反対する百人委員会 ● 一九八三・二

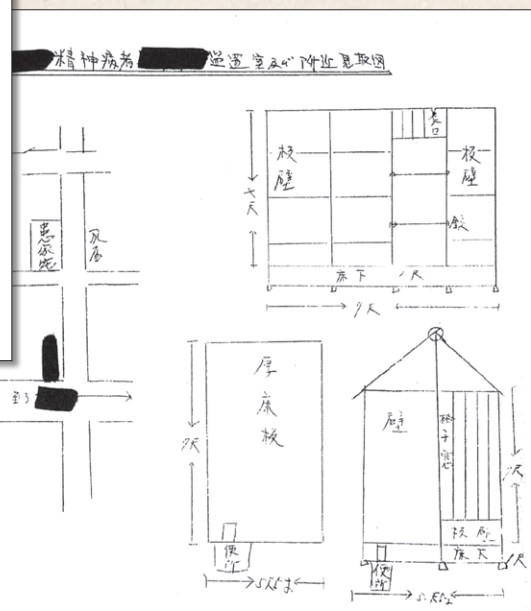


第14巻
保安処分、医療観察法との闘い
その他

- 資料報告書「精神科医療領域における他害と処遇困難性に関する研究」全文 ● 精神衛生法撤廃全国連絡会議 ● 一九九〇・四
- 「保安処分を考える 2001.7.27 全都実習会報告記録抄」 ● 岡田靖雄 ● 二〇〇一・一〇
- 「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律案」に反対する臨床精神科医の声明 ● 心神喪失等の強制医療観察法に反対する精神科医の集い ● 二〇〇二・五
- 「心神喪失者医療観察法案」に反対する 臨時国会における審議にあたって ● 心神喪失者等の強制医療観察法に反対する精神科医の集い ● 二〇〇二・九
- お知らせ ● 「処遇困難者専門病棟」新設阻止共闘会議事務局 ● 一九九五・七
- 医療観察法を許すな！ ● 二〇〇六・五
- 百人委員会ニュース ● No.1 ● 刑法改正、保安処分に反対する百人委員会 ● 一九七四・八
- 百人委員会ニュース ● No.2 ● 刑法改正、保安処分に反対する百人委員会 ● 一九七四・九
- 百人委員会ニュース ● No.3 ● 刑法改正、保安処分に反対する百人委員会 ● 一九七四・二〇
- ネットワーク・ニュース ● No.1 ● 心神喪失者等医療観察法（予防拘禁法）を許すな！ ● 二〇〇四・二
- ネットワーク・ニュース ● No.2 ● 心神喪失者等医療観察法（予防拘禁法）を許すな！ ● 二〇〇四・七
- ネットワーク・ニュース ● No.3 ● 心神喪失者等医療観察法（予防拘禁法）を許すな！ ● 二〇〇四・一〇
- 連絡会議ニュース ● No.1 ● 全国精神医療従事者連絡会議 ● 一九八六・五
- 連絡会議ニュース ● No.2 ● 全国精神医療従事者連絡会議 ● 一九八六・六
- 連絡会議ニュース ● No.3 ● 全国精神医療従事者連絡会議 ● 一九八六・六
- 連絡会議ニュース ● 復刊第1号 ● 全国精神医療従事者連絡会議事務局 ● 二〇〇一・九
- 連絡会議ニュース ● 復刊第2号 ● 全国精神医療従事者連絡会議事務局 ● 二〇〇二・二
- 連絡会議ニュース ● 復刊第3号 ● 全国精神医療従事者連絡会議事務局 ● 二〇〇二・四



「一九五八年 精神病患者監置に関する書類」より



■ その他

七月四日院長会見要旨 三沢院長・斉藤庶務課長 ● 仲田・菊地・大内（二寮代表）

私のいた施設の実態 新田絹子／くにたち・かたつむりの会 ● 一九七六・二

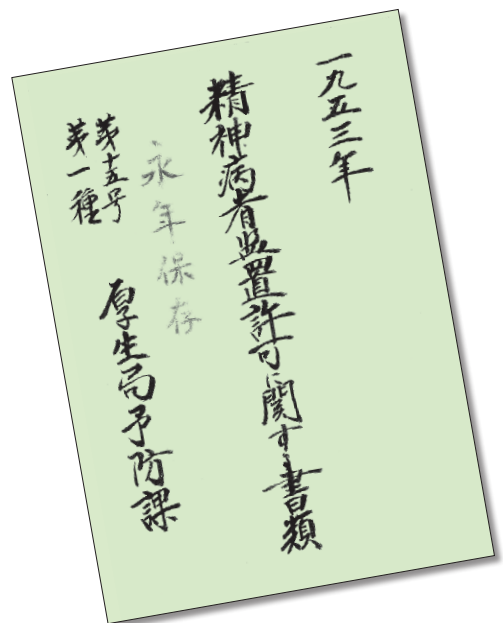
- すつぽん会報 第1号 ● 一九六九・一
- すつぽん会報 第2号 ● 一九六九・五
- すつぽん会報 第3号 ● 一九七〇・四

第15巻
沖縄の精神病患者監置資料Ⅰ
解説＝橋本明

- 一九五三年 精神病患者監置許可に関する書類
- 一九五四年 精神病患者監置許可に関する書類
- 一九五五、六年 精神病患者監置許可に関する書類
- 一九五七年 精神病患者に関する書類

第16巻
沖縄の精神病患者監置資料Ⅱ
解説＝橋本明

- 一九五八年 精神病患者監置に関する書類
- 一九五八年 精神病患者に関する書類 監置廃止届その他
- 一九五九年 精神病患者に関する書類 監置許可
- 一九六〇年 精神病患者監置願綴



中央精神衛生審議会・精神障害者家族の運動・宇都宮病院事件・人権センターの設立・
精神保健法・入院患者への虐待や暴行・尊厳死・国賠訴訟・成年後見制度…

近現代史・国家・人権・優生思想・生命倫理・生殖医療・差別…… 「精神障害者」の問題を通して戦後の日本社会を問う！

●第13巻～第16巻の構成

第5回配本	第13巻	精神衛生審議会記録／精神障害者家族会のあとさき／ 精神障害者人権擁護の動き	
	第14巻	保安処分、医療観察法との闘い／その他	
	第15巻	沖縄の精神病患者監置資料Ⅰ	解説 橋本 明
	第16巻	沖縄の精神病患者監置資料Ⅱ	解説 橋本 明
		本体100,000円+税	ISBN978-4-86617-304-7

●既刊図書のご案内

第1回配本	第1巻	精神衛生法とライシャワ事件Ⅰ	解説 岡田靖雄 橋本 明	本体75,000円+税 ISBN978-4-86617-172-2
	第2巻	精神衛生法とライシャワ事件Ⅱ／沖縄	解説 岡田靖雄 橋本 明	
	第3巻	精神科医の運動Ⅰ	解説 岡田靖雄 野田正彰	
第2回配本	第4巻	精神科医の運動Ⅱ	解説 岡田靖雄	本体75,000円+税 ISBN978-4-86617-173-9
	第5巻	精神科医の運動Ⅲ	解説 岡田靖雄	
	第6巻	家族会	解説 岡田靖雄	
第3回配本	第7巻	大学闘争／「金沢学会」／市民運動	解説 岡田靖雄 富田三樹生 山下剛利	本体75,000円+税 ISBN978-4-86617-174-6
	第8巻	宇都宮病院事件など	解説 岡田靖雄	
	第9巻	ロボトミー・暴行・冤罪事件Ⅰ	解説 岡田靖雄 寺澤暢紘	
第4回配本	第10巻	患者会運動	解説 岡田靖雄 江端一起	本体75,000円+税 ISBN978-4-86617-175-3
	第11巻	ロボトミー・暴行・冤罪事件Ⅱ	解説 岡田靖雄	
	第12巻	ロボトミー・暴行・冤罪事件Ⅲ	解説 岡田靖雄	

A4判・上製・総約1,580ページ
揃定価＝100,000円+税
ISBN978-4-86617-304-7

解説 | 橋本明（愛知県立大学教授）
編 | 岡田靖雄

戦後編 第13巻～第16巻 精神障害者問題資料集成 編集復刻版

2025年
6月刊行！

*表示価格はすべて税別。



六花出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-28 電話 03-3293-8787 FAX 03-3293-8788 <https://rikka-press.jp>